

氏名	白川和豊
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第1585号
学位授与の日付	昭和60年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	急性大動脈解離の進展の機序に関する実験的研究
論文審査委員	教授 折田薫三 教授 村上宅郎 教授 中山 沃

学位論文内容の要旨

解離性大動脈瘤は近年増加の傾向にあり、内科的・外科的治療成績も改善しつつあるが、依然として予後不良な疾患の1つである。本症の病態に関しては古くより、理論的・実験的研究が試みられてきたがいまだ不明な点が少なくない。本症は急性期の死亡率が高く、この時期の病態を明らかにすることによりさらにその治療成績を改善し得ると考え、主として血行力学的要因と、解離の発生・進展の関係について犬大動脈を用いて実験的に検討した。その結果、解離の進展には、高血圧がもっとも重要な要因であり、流量・血液粘度等との関係も認めたが、Wheatの強調する心収縮力との関係は実験的には証明し得なかった。さらに逆行性解離進展モデル犬を作製し得、逆行性解離の進展には、末梢低抗増大、内膜裂孔の大なることが必要条件と判明した。また解離した犬大動脈の病理学的検査を行い、解離は中膜の種々の層で生じうることを、中枢側では外層に近くても、末梢側では内層に近く解離することなどが判明した。

論文審査の結果の要旨

解離性大動脈瘤発生の病態はなお不明の点が多い。本研究者は犬大動脈中膜に小さなポケットを作り、解離の発生・進展に血行力学的面から重要な知見をえている。すなわち、解離の発生・進展に、従来、最も重要な因子とされていたWheatの心収縮力 dp/dt との関係はみられず、高血圧が最も大切な因子であることなどを明らかとし、急性期の治療にも大きな指針を与えている。以上は極めて価値ある仕事であり、本研究者は、医学博士の学位を得る資格のあることを認める。